平成 10 年 9 月 11 日

＜街の話題＞

花のお江戸は池袋に候
地元ブランド清酒「やばた川」発売

豊島区酒販連合会では、池袋のプライベート(手印)清酒「やばた川」を明日 12 日より発売開始する。酒販店並びに地域経済活性化の起爆剤にとの願いを込め、地元の祭礼に合せて発売されるもので、初の地元ブランド酒の誕生となる。

この清酒「やばた川」は、酒造好適米である新潟県新発田市産の「五百万石」を原料米に、同県酒造メーカー妙高酒造に醸造を委託して、昨年の冬に仕込、春に発酵、夏をこして、この秋口に仕上がった大寒仕込の本醸造酒。原料米は芯白が中心にあるのが特徴で、麹菌が食い込みやすくきれいな酒ができる。飲み口は淡麗辛口。

ブランド名の「やばた川」は、かつて区内を流れていた川の名(谷端川)で、現在は暗渠化され、その上に公園緑地遊歩道が作られている。谷端川は、要町粟島神社の自然湧水池を水源とし、かつての長崎村、滝野川村、巣鴨村を経て小石川村へと、現在の豊島区から文京区を流れ神田川に合流していた延長 11km に及ぶ河川であり、豊島区内を最も長く流れていた川である。『豊島区史』をひもとくと、谷端川沿いで弥生遺跡の池袋貝塚が発見されており、弥生時代にはすでに流域に集落が形成されていたことがうかがえる。江戸時代には千川上水からの分水も行われ、大正時代まで流域の生活用水、灌漑用水として活用されていた。

また、ラベルのデザインは、池袋御嶽神社氏子である１６町会の御輿を担ぐ際に羽織る祭半纏のマークが配され、「やばた川」の書は同神社宮司の筆による。祭囃子に合せて誕生する酒にふさわしい装いである。

今回製造されたのは、一升瓶にして約１万本。一升瓶１本(1.8ﾘｯﾄﾙ)で 1895 円(消費税別)。豊島酒販連合会に加入している池袋地域の酒販店で販売される。

詳細：豊島酒販連合会